

耕して蒔いて育てて刈り入れる円環をつなぐより他
はなし 河野千絵

被災からの立ち直りを、心情ではなく、生の哲学としてうたっている点に注目。土地に生きる基本は農の円環を生きたことなのだ。その円環を断ち切られた点が、津波・地震・原発事故の基本的な重要事なのだ。

集団を鼓舞する言語 みつめつつひとりひとりにか
たることのは 本田一弘

震災以後、テレビ画面に歌手や俳優やサッカー選手などが出てきて、「ニッポンは強い国」などと言ったりしている。そんな言葉を上句は指していると読んだ。作者が表現しなかったのは、そんな言葉に対する不信か。マスコミの言葉ではなく、個人が個人の目を見てしゃべる言葉の大切さ。

石棺と遺跡めきたる名で呼ばれる原子炉にあと幾百の
春 大里晃代

チェルノブイリでもフクシマでも、どちらと読んでもいいだろう。いずれにしてもメルトダウン・メルトスルーした原子炉である。これから何十年、来世紀にまで管理してゆかねばならないらしい。

チラーゼンスを造れる工場の稼働止みたり震災の後
に 長嶺元久

医師としての立場で東日本大震災をうたう。形容詞も

短歌の現在

No.372 今月の14首を読む

佐佐木幸綱

副詞もなく、名詞と動詞でシンプルに事実だけを表現して輪郭の明快な作品とした。チラーゼンスは、甲狀腺ホルモン製剤で、いわき市の工場が被災して一時は品不足でたいへんだっただけらしい。インターネットで見ると、現在は緊急輸入等の手立てで落ち着いたらしい。

ヒロシマとナガサキのある国になぜ原発があるのかと問われおり 美帆シボ

東日本大震災のニュースをフランスでうたった一連中の一首。日本国内とは、さまざまな点で、取りあげ方や反応がちがう。その点に焦点を合わせてうたっている点はずが。

子の妻と孫の二人がたずねくる停電の夜に湯たんぼ
持ちて 河野文子

今月号には停電の歌がかなりあった。関東地方では一時、計画停電なる試みがなされたからである。戦後しばらくはよく停電したが、最近では珍しい。だから、歌が多かったのだろう。中で、温かい雰囲気この歌に注目した。停電がふと浮かび上がらせた人と人との関係。結句「湯たんぼ持ちて」が、いい。

褒められてまた褒められてわつと散る朧夜のこのさ
くら天井 花美月

美人スターをうたったような、華やかさとドラマチックな展開が持ち味。ただ、「朧夜」はいかが。